

さんぽ

発行所
〒175-0083
東京都板橋区徳丸
三丁目41-16
板橋区立徳丸福祉園
園長 山崎智通
編集 機関紙担当
電話
(03)3935-7213

職員大募集
くわしくはWEBで♪
公式サイト
<http://www.tokumaru-fukushien.com>
徳丸福祉園

新年を迎えて

新年、明けまして、おめでとうございます。

ご利用者・ご家族の皆様におかれましては、明るいお正月を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

今年は、昨年の夏が猛暑であったため、逆に寒い冬になるのではないかとという声も聞かれますが、干支の「うさぎ」のように穏やかで温もりのある年となることを心から願う次第です。

昨年は、コロナ禍が三年目と長期化し、利用者の皆様の活動など思うようにできず、残念な年であったと感じております。今年こそは、コロナの終息を願うところです。

またさらに、徳丸福祉園は、一昨年の冷暖房設備全面改修工事に続き、昨年は、全熱交換器・換気設備の全面取替を行い、工事のため、フロアごとに地階のホール等へ引越しを行わなければならぬ制約のある運営でした。皆様には、大変迷惑をおかけした年であったと思います。

さて、徳丸福祉園は、今年、指定管理者の更新をして三年目になります。五年間の指定管理期間の中間年となります。更新時には、利用者の皆様のサービス向上を目指して、五年間の中期計画を策定し、新たな事業に取り組むこととしました。この計画は、期間を令和三年から令和七年までとして、新規五事業を掲げております。今年、計画のちょうど中間年となり計画の実施、

進行管理、そして必要により、見直しや改善を図っていきたくと考えております。



計画のこれまでの五事業の実施状況につきましては、①実効性あるBCP（業務継続計画）の改訂、②災害時の避難宿泊を訓練する「園内宿泊訓練」の実施、③「作品・美術展」の区役所民ホール開催に向けての準備と作品制作、④「延長支援サービス」の本格実施、⑤利用者の皆様の日々の活動を紹介するイベントとして「くまのウィーク」の実施など取り組んで参りました。実施に当たっては、コロナ禍で規模の変更はあったものの計画どおり順調に実施することができました。これもご利用者・ご家族の皆様のご理解によるものと感謝しております。なお、計画の見直しや改善に当たっては、利用者の参加状況や内容の充実等を踏まえ、検討していきたいと考えております。引き続き、計画を進行管理して進めて参りますので、皆様のご協力をご理解をお願いいたします。

板橋区立徳丸福祉園

園長 山崎智通

全熱交換器・換気設備全面改修工事

昨年度の冷暖房設備の全面改修工事に引き続き、今年度は、全熱交換器・換気設備全面工事を実施しました。

全熱交換器は、換気による熱のロスを少なくする換気設備で、換気しながら空調機能をサポートして、省エネを高める効果が期待できる換気機器です。今回の工事では、地下一階から三階まで各部屋にある、全熱交換器と換気設備のすべてをリニューアルしました。

今回の工事も通常でしたら、園を休園して行う様な大工事ですが、施設を運営しながら行うという、利用者にとっても、大変な工事でした。まずは、地下一階から工事をスタートし、三階、二階、一階という順番で工事を進めていきました。

今回は、空調設備が使用できる状況での工事でしたので、暑さや寒さが苦手な方でも、比較的負担の少ない環境ではありましたが、この期間は、今まで広い多目的ホールで行っていた合奏リトミックや、ウォークリトミックなども行えず、地下の活動室で過ごしていた利用者も一階に移動し、スペース的にも制限のある環境となりました。

そんな状況ではありましたが、昨年度の工事で慣れていたので、大きな混乱もなく、工事を終えることができました。

この工事を行ったことで良く

なったことは、新しい全熱交換器には、加湿機能が搭載されているので、空調設備では不足がちな湿度を快適に保てるというメリットが第一に挙げられます。また、事務室の集中リモコンで一括管理ができるようになったため、電源の切り忘れ等もなくなり、エコな運転が可能となりました。まさに持続可能な開発目標（SDGs）の達成に大きく貢献してくれるものとなります。

工事に伴い、様々な活動制限等にご理解、ご協力していただき、ありがとうございました。利用者・ご家族の皆様には、心より感謝申し上げます。



COVID-19感染対応

（一）陽性者・濃厚接触者
新型コロナウイルス感染症の第八波は、第七波よりも新感染者数の拡大が緩やかではありませんが、着実に感染が拡大しています。年末年始にかけて、人との接触する機会が増えますので、更なる拡大が予想されます。

もし、発熱やのどの痛みなど風邪症状が出た時には、まずは、東京都発熱相談センターに相談してください。東京都では、症状のある方に、無料で抗原定性検査キットを配布しています。そういった案内も必要に応じて発熱相談センターでしていただけますので、まずはご相談をお願いします。

同居家族の待機期間

0日目 → 5日間の待機期間 → 6日目 解除

以下のうち、いずれか遅い日を0日目とする

- 感染者の発症日
- 感染者が診断時無症状の場合は検体採取日（その後発症した場合は、その発症日）
- 同居家族の中で別の家族が感染発症した場合は、その発症日
- 感染した別の家族が診断時無症状の場合は検体採取日（その後発症した場合は、その発症日）
- 住居内で感染対策（※）を講じた日

（※）日常生活を送るうえで可能な範囲での、マスク着用、手洗い、手指消毒の実施、物表面の共有を避ける、消毒等の実施

<船橋市ホームページより>

また、ご家族が陽性となったことで、濃厚接触者となった場合には、陽性者の発症日（無症状の場合は検体採取日）又は、発症後住居内で感染対策を講じた日のいずれか遅い方を0日目として、五日間の待機期間が必要となります。住居内で、感染対策が講じることが難しい場合には、陽性となったご家族の療養期間が終了する日を0日目とし、次の日から五日間が濃厚接触者の待機期間となりますが、七日目までは、健康観察期間となりますので、引き続き、体調には留意する必要があります。現在は、無症状で陽性となる

方も多くみられます。少しでも体調に変化があれば、無理をせず、医療機関等に受診してください。

(2) 新型コロナウイルスワクチン接種

十二月に新型コロナウイルス感染症ワクチンの五回目の予防接種を利用者七十一名と職員二十八名の希望者全員に実施致しました。

ファイザー製薬のワクチンを使用し、



今回も園の嘱託の産業医と内科医の先生方の協力のもと、徳丸福祉園を会場として、二つのグループに分けての実施となりました。

五回目の接種ということもあって、利用者の皆さんも慣れていて、とてもスムーズに終えることができました。

今回のワクチンは、オミクロン株対応ワクチンで、従来のワクチンと比較して、オミクロン株に対する重症化・感染・発症予防効果がそれぞれ強いことが期待されています。ワクチンも万能ではありませんので、引き続き、感染症対策に取り組んでいきたいと思えます。



ワクチン接種の様子

園内宿泊訓練



今年度、徳丸福祉園では、はじめて園内での宿泊訓練（防災宿泊訓練）に係りに計七回実施しました。全熱交換器換気設備更新工事があったため、当初予定していた半分の日程となりました。

内容は、災害時の体験として、非常食用クッキーを食べました。みなさん、美味しそうに食べていました。また、非常用トイレに座る体験では、座る前は、少し不安そうな様子も見られましたが、実際に座ってみると思っていたよりも安定していることが分かり、安心されていました。また、いつもよりも暗い活動室



でランタンや懐中電灯を使用したり、園内で布団を敷いて寝るなど、いざという時に備えた練習を行うことができました。その他にも防災の映像鑑賞やレクリエーションとしてカラオケなども楽しみました。参加された方の中には、「いつも生活している場所のためか、



緊張した様子もなく、ぐっすりとお眠ることが出来た方」、「家に帰らないことに不安そうな表情の方もいらつしやいましたが、慣れていく場所ということもあり、時間と共に表情が和らぎ、リラククスして過ごされた方」、「わくわくしてなかなか寝付けない方」など利用者さんのいつもと違った表情をたくさん見ることができ、職員にとっても良い経験となりました。

利用者の皆様にとって、普段過ごしている福祉園に宿泊できることは、今後にもつながる貴重な経験となったと思います。初めての園内での宿泊でしたが、大きなトラブルもなく、無事に終えることができました。



この位置でいいかな…?

映画鑑賞



ワークハウスでは、十一月から十二月にかけて、映画鑑賞の外出を行っています。この活動は、余暇活動の一環として、行われています。一般的に余暇とは、お仕事や勉強の合間の自由時間の事を意味します。しかし、知的障がいのある人にとって、この余暇時間は「何をしたいかわからない」と困ってしまう人が少なくありません。このため、ワークハウスでは、敢えて余暇を活動として位置付け、知的障がいのある人でも一緒に過ごす仲間との交流をおして喜びや楽しい気持ちを持共有し、社会経験を広げる、心身のリフレッシュを図ることができるよう支援しています。

今回の活動でも、活動への参加や、観たい映画の希望など、利用者の皆様に選択していただき、映画を鑑賞するだけでなく、持参していただいたお小遣いで飲み物やパンフレットなどのグッズを購入するなど、主体的に活動に取り組めるように支援しています。

参加された利用者の皆様は、当日の朝からウキウキわくわく、映画館へ出掛けるまでのお仕事へも一層力が入った様子でした。映画館では、にこやかな表情で、陳列されたパンフレットや壁一面装飾されたジブリ作品の数々を見て、あれ見たい、あれ知ってる、観たことある、特設されたセットで記念撮影など静かに盛り上がっていました。

翌日登園されると、楽しかった、おもしろかった、また行きたいなどと好評で、普段なかなか味わうことのできない活動を楽しんでいた様子でした。



施設・活動紹介



十二月十三日（火）から十二月十七日（土）までの五日間、今年度初めての企画、「施設・活動紹介」とくまるウイークを開催しました。とくまるウイークは、普段の活動や施設の様子を、地域の方やご家族の皆さんに知ってもらうために、今年度初めて企画したものです。

初日は、四人程度のお客さんでしたが、土曜日までの五日間で、たくさんのお客さんをお迎えすることが出来ました。地下ホールでの美術展「とくまるアートギャラリー」と、給食の「試食コーナー」、活動



紹介の写真展示、「リトミックの発表」、「創作講師の直接指導による創作活動」など、様々な活動を来園の皆さんに見ていただくことができました。

特に「とくまるアートギャラリー」は、利用者さんと園の創作活動担当、とくまるウイーク委員会が共同で企画し、こだわって会場設営をしました。作品に光を当てて、作品が際立つようにライトアップし、美術館さながらの雰囲気を出すことが出来ました。こだわって作り上げたギャラリーは、ご来園くださった方々から大好評をいただくことが出来ました。

とくまるウイークを開催し、なにより、ご来園くださった皆様の温かい言葉、驚いたお顔を拝見することが出来、とても嬉しく、頑張ってきたよかったです。心から思うことが出来ました。ご来園の皆様には、心より感謝申し上げます。

